

日時: 2023 年 10 月 20 日(金) 9:30-12:00

会場: 日本大通り駅改札口 9:30 集合

◆ 主催: 防災塾・だるま 総括運営: 鷺山 司会: 山田(美) 記録: 田中(晃)

◆ 参加者: 12 名 相原講師 荏本 鷺山 伊藤(郁)、大西、落合、田中(晃)、高松、土谷、樋口、松島、山田(美)、(敬称略)

話題: 「横浜の関東大震災」を学ぶまち歩き (関内・日本大通りコース)

講師 相原延光氏 防災塾・だるま理事 関東学院中学校高等学校地学部コーチ

鷺山塾長挨拶

関東大震災は神奈川県下のプレート境界での直下地震で、横浜市域は壊滅した。市民が死とは紙一重だった関内の日本大通りを中心とした震災遺構ポイントを巡り、当時の出来事と時代の変遷を体感しながら歩きます。



■相原氏挨拶

「横浜の関東大震災」については、震災の記録が残る地域を現在でも災害リスクがあることを、地盤研究や被災体験談、非文字資料によりポイントを分析してきました。

特にまち歩きについては、馬車道と本町通り周辺のご案内、建築士会会員への日本大通り周辺への案内、さらに「ぼうさいこくたい」の発表準備で内容を充実した結果、11月の「KU エクステンション講座」を迎える準備ができました。今日はぜひ堪能していただきたい。



■防災まち歩きルートのご案内

テーマやストーリー性から、次の5点から関内(日本大通りルート)を選別しました。

A: 中村川右岸: ①横浜中華街から山手の台地へ ②山下町から横浜公園へ

B: 関外と関内: ③馬車道、日本大通り、横浜公園 ④元町と山手の崖

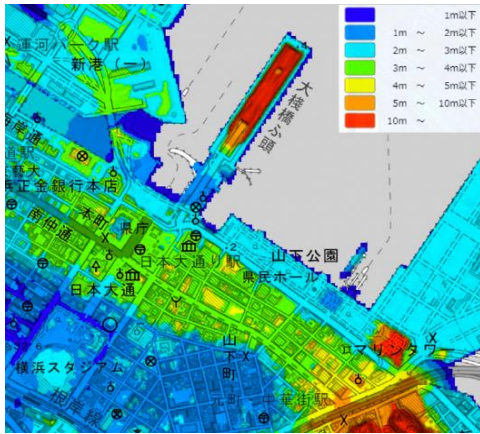
C: 大岡川左岸: ⑤馬車道から伊勢山、御所山

■訪問地

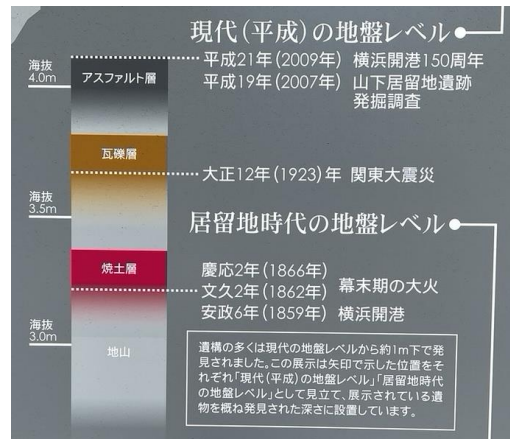
- ①横浜市開港記念会館 1917 年 地上 36mSRC 建築、②開通合名会社煉瓦建築遺構
- ③ 横浜税関(海浜) ④ 大棧橋(海浜) ⑤ 神奈川県測候所跡地(海浜)
- ⑥ 開港広場(砂嘴) ⑦ 横浜開港資料館(砂嘴)(旧英国領事館) ⑧ 日本大通り(砂嘴)
- ⑨ 露亜銀行 1921 年 RC 建築 ⑩ 横浜居留地 48 番煉瓦造遺構(1883 年建築旧モリソン商会跡)
- ⑪ 山下居留地遺跡調査解説遺構(砂嘴) ⑫ JALCITY ホテル(砂嘴)(旧ドッドウェル商会跡地・O.M. プール氏事務所) ⑬ 旧居留地 90 番跡 ⑭ 消防救急発祥の地(第二消防署貯水槽煉瓦遺構)
- ⑮ 旧三井物産ビル 1911 年(地上 3 地下 1 日本最古 RC 建築(砂嘴))
- ⑯ 横浜地方裁判所慰霊碑(砂嘴とスワンプ境界) ⑰ 衣紋坂跡(スワンプ: 沼地・湿地埋立地)
- ⑱ 横浜公園・ブラントン彫像(スワンプ) ⑲ 庭園・横浜公園震災記念碑・横浜球場 南西端

◆細目 第 193 回談義の会の「まち歩きメモ」に詳細の説明があり、ご利用ください。

◆地理院地図(標準地図+傾斜量図+色別標高図)による横浜中心部の地形状況
10m~1m以下を7段階に色別表示



◆現代(平成)の地盤レベル
横浜開港以来積み上げてきた。

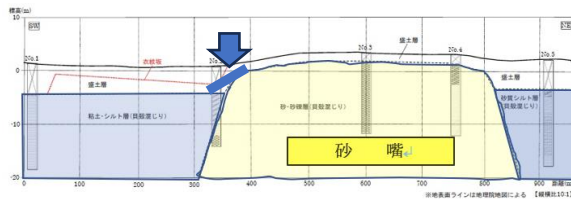


←アスファルトの下には歴史が埋もれている

←関東大震災で瓦礫の堆積

←江戸末期の慶応の大火←砂嘴の地盤は古代からの生活の場でもあった。(縄文土器、弥生人・古墳人の住居跡遺構)

◆砂嘴(上図黄色部分)と埋め立てエリア ◆左記衣紋坂部



左方向が横浜公園

マンホールのアスファルトの地下は盛土でその下の地盤はシルト(泥)質の軟弱地盤

◆山下居留地遺跡



◆彼我公園(横浜公園)の誕生



■追記:「第193回談義の本レポート」に「まち歩きメモ」「まち歩き写真」、背景となる「防災サロン」の3つの報告を読み解くと全体の関連性が良くわかります。相原氏の3部作、ありがとうございました。

- 次回 第194回談義の案内 (会場参加+ZOOM参加 ハイブリット形式)
- ・日時: 2023年12月15日(金) 15:15~16:00
- ・話題: 横浜市防災力向上マンション認定制度について
- ・講師: 後藤浩志氏(都筑区災害ボランティア) 伊藤郁夫氏(ヤマトプロテック)(横浜市建築局にも説明を依頼しています。)
- *終了後「防災サロン」も行われます。